

愛のこもった話し方

マリア・フォンティーン

同じ食べ物でも料理の仕方によって味が全く異なるものです。例えば、ジャガイモの調理法は何百通りもあります。ある方法で調理されたジャガイモが大好物だとしても、別の調理の仕方だと全く好きではない場合もあります。野菜や果物も、生で食べるのと、調理して食べるのとでは、全く異なる体験となります。

料理と同様、他の人とのコミュニケーションも、その「出し方」によって反応が変わってきます。コミュニケーションでは、「話し方」がものを言うのです。例えば、二人の人が同じ考えを説明するのに、全く違ったやり方をする場合があります。否定的な語調で、あらゆる種類の否定的な感情を込めて話す人は、否定的な反応を引き起こします。反対に、愛のこもった、思慮深い行動をする人は、より大きな成功を収めることでしょう。

愛のこもった話し方をするなら、相手は愛されていると感じ、良い気分になります。そして、あなたが彼らを信頼しており、好意と敬意を持っていることが伝わるので、結果的に、必要な時に相手からの協力を得ることができます。

話す内容の方が、話し方よりも重要だとは限りません。時には、相手にとって受け入れにくいと思われる問題や物事を指摘しなければならなかったり、率直に言う必要がある場合もありますが、相手への誠実な気づきかが伝わるならば、率直に話しても受け入れるのが容易になるものです。

たとえ、すべて正しい言い方で正しい事を言うことができなかった場合でも、人々が、あなたは自分を気づかせてくれていると感じるなら、それこそ、彼らにとって一番大切なことであり、互いの関係を強めていく上で最善の方法なのです。ですから愛と信頼を示しましょう。



機転を利かせる

場違いのように思える言葉やタイミングの悪かった一言、あるいは、相手を悪く言ってしまった言葉などは、しばしば機転の欠如と考えられます。

機転は英語で「tact」と言いますが、辞書では、良い関係を保ち、相手の気を害したりしないように、適切な行動をし、適切なことを語る鋭敏なセンスとあります。それは、小さな違いを感じ取る細やかさを要することでしょう。この「tact」の語源はラテン語の tactus であり、「人の心に触れる」という意味です。

ですから、機転を利かせて、タイミングをふまえ、時になかった言葉を言えるようになるには、相手を良く知り、その人の感情や受けとめ方に敏感になって、感情を傷つけるような言い方を避けることです。それでは、どうしたらもっと機転を利かすことができるのでしょうか？ まずは、祈ることです。人々の感情に敏感になれるように祈り、何かを言う前に、もっと祈り深くなる習慣を築きましょう。

— ◆ —
柔らかい答は憤りをとどめ、激しい言葉は怒りをひきおこす。知恵ある者の舌は知識をわかち与え、愚かな者の口は愚かを吐き出す。優しい舌は命の木である、乱暴な言葉は魂を傷つける。(聖書 箴言 15 章 1, 2, 4 節)